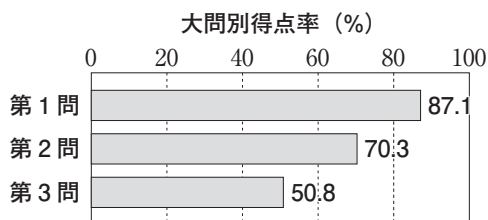
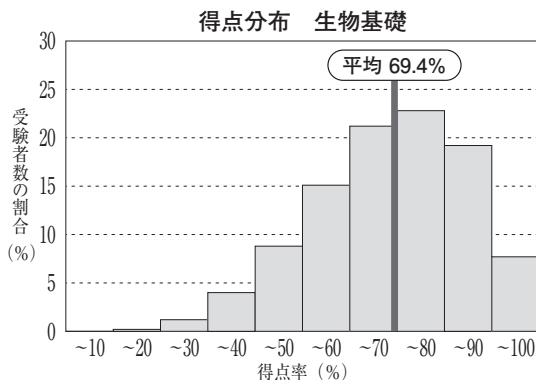


生物基礎

知識をもう一度整理しよう

I. 全体講評

今回の最終12月センター試験本番レベル模試の平均点は34.7点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター本試験に準じた形をとり、第1問は生物と遺伝子、第2問は生物の体内環境の維持、第3問は生物の多様性と生態系とした。分野に偏りがなく、教科書全体からまんべんなく出題している。今回の模試で平均得点率に届かなかった大問、また他と比べて正答率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしよう。



II. 大問別分析

第1問の得点率は87.1%、第2問の得点率は70.3%、第3問の得点率は50.8%であった。

第1問 生物と遺伝子

代謝とATPに関する知識を整理しておこう。

AはATPの構造、生成と利用などに関する知識問題であった。問1~問3の正答率はそれぞれ89.0%、86.0%、74.7%で、全体によくできていた。Bは独立栄養生物および光合成に関する基礎知識を確認する問題であった。問4~問6の正答率はそれぞれ72.8%、98.4%、97.8%で、全体によくできていた。この分野に出てくる生物名については、実験・観察の材料も含め、どのような生物なのか再確認しておこう。

第2問 生物の体内環境の維持

腎臓の構造とはたらきおよび獲得免疫に関する知識をまとめておこう。

Aは、腎臓に関する基本知識を確認する問題および計算問題で、問1~問3の正答率はそれぞれ89.9%、80.5%、59.9%であった。腎臓に関する計算問題については、もう一度過去問等に当たっておくとよい。Bは獲得免疫に関する知識問題及び実験考察問題で、問4、問5の正答率はそれぞれ54.2%、74.7%であった。実験考察問題では、問題文および図・表などから得られる情報を落ち着いて整理し、正解を導きたい。

第3問 生物の多様性と生態系

世界のバイオームに関する知識を整理しておこう。生態系に関する用語について再確認しておこう。

Aはバイオームに関する知識問題で、問1~問3の正答率はそれぞれ58.0%、55.5%、36.9%であった。各バイオームを代表する植物名についてはもう一度確認しておこう。Bは生態系に関する用語に関する問題で、問4~問6の正答率はそれぞれ79.9%、41.0%、45.4%であった。作用と環境形成作用につ

いて理解を深めておこう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書の知識をしっかりと身につけることを目指そう。

センター試験の生物基礎は、大問が3題の構成で出題された。センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。問題文を読みこなし、データを解析し、知識をもとに考察する力が必要となる。センター試験で高得点を取るためには、最後まで教科書をしっかりと読み込み、どの分野にも苦手部分が残らないようにすることが大切である。ただ暗記するのではなく、納得するまで教科書を読みこみ、仕組みを理解しながら勉強しよう。これまで受験した模試やセンター過去問を使って、しっかり復習して高得点を狙おう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そのため、できるだけたくさん問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。今までに受けた模試の問題をもう一度解き直してみることも有用である。これからの時期は、新しい問題に次々と手を付けるより、これまでに解いたことのある問題を使って徹底的に苦手分野を補強していこう。